

空調ハウスによるアラゲキクラゲ栽培技術の確立

背景

本県のキノコ生産量は99%が菌床栽培によるシイタケですが需要の少ない夏場の価格の下落と、近年の夏場の気温上昇による空調コストの増大が懸念されているところです。



シイタケ空調ハウス

研究の目的

今回シイタケに比べて高温で栽培が可能なアラゲキクラゲを、シイタケ栽培の補完キノコとして栽培することを目的に、研究をおこないました。

研究の内容 および成果

培養条件の解明→
 ・アラゲキクラゲ種菌は生育範囲が15℃から35℃と広い(図1)。
 ・菌糸の生長には暗黒下が適している。
 ・培養期間は60日が適している。

発生条件の解明→
 ・栄養体(米ぬか等)の比率を培地重量の20%にするとサイズの大きなキノコを効率よく収穫できる。
 ・発生のための培地の切り込み(スリット)は実線スリットが点線よりも大きなキノコの発生量が多い(図2)。
 ・発生温度は23℃前後とシイタケよりも高い。
 ・換気、散水を十分に行う必要がある。



アラゲキクラゲ

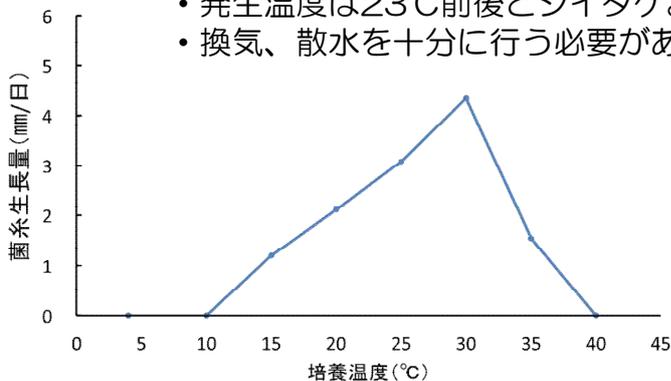


図1 培養温度別の菌糸生長量
 供試菌:アラゲキクラゲ89号(森産業)

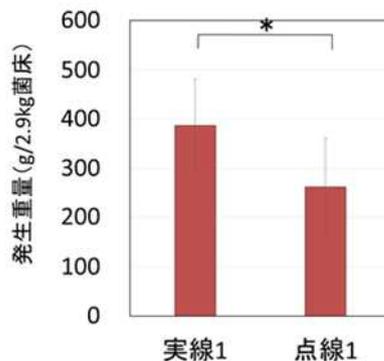


図2 7cm以上子実体発生重量
 *:危険率5%で有意差あり(t検定)
 垂線は標準偏差を示す(n=8)

(研究期間:平成28年~30年;シイタケ施設を利用した新規食用きのこ栽培技術の開発)

生産者のみなさまへ

アラゲキクラゲはしいたけの栽培工程と同様の工程で栽培が可能です。一方で、空調栽培による収量を安定させるには、乾湿度条件の解明などの課題が残されています。今後は継続してそれらの試験を行うとともに、未利用資源活用の観点から基材にスギやバガスを用いた培地の検討なども行う予定です。

問合せ先 徳島県立農林水産総合技術支援センター
 資源環境研究課
 電話 088-674-1957